

(様式2)

**公立大学法人青森公立大学**

**平成23年度 業務実績評価書**

**平成24年8月**

**青森市地方独立行政法人評価委員会**

# 目 次

I	評価の基本的な考え方	1 頁
II	全体評価	
1	総評	3 頁
2	業務の実施状況	4 頁
3	組織、業務運営等に係る改善事項等	5 頁
III	項目別評価	
1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）	5 頁
2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）	6 頁
3	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）	6 頁
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画	7 頁
5	財務内容の改善に関する目標を達成するための計画	7 頁
6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画	8 頁
7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画	8 頁

## I 評価の基本的な考え方等

青森市地方独立行政法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、公立大学法人青森公立大学（以下「法人」という。）の平成23年度における業務実績について評価を行った。

評価の実施に当たっては、法人の年度計画に定めた事項ごとにその実績等を明らかにした業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

### 1 項目別評価

調査・分析の結果を踏まえ、中期計画の次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階により評価する。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事業の外形的な進捗状況を評価する。

#### 【大項目】

- ①教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）
- ②教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）
- ③教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）
- ④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画
- ⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための計画
- ⑥自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画
- ⑦その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画

#### 【5段階評価】

- 5：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- 3：中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。
- 2：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- 1：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

## 2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、平成23年度における業務実績の全体について、記述式により市民がわかりやすい総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

## 3 青森市地方独立行政法人評価委員会委員

区 分	氏 名	役 職 等
委 員 長	林 光男	青森商工会議所会頭
委 員	宮下 俊郎	日本銀行青森支店長
委 員	井畑 明男	株式会社青森銀行顧問 (前社団法人青森県経営者協会会長)
委 員	石田 隆志	日本労働組合総連合会青森県連合会会長
委 員	成田 正行	公立大学法人青森県立保健大学事務局長

## II 全体評価

### 1 総評

公立大学法人青森公立大学は、経営経済の分野の諸問題について地域性を軸にした理論的・実証的研究を推進し、その研究成果に基づいて、広く社会に有為な人材を輩出し、更には大学が存在する地域を中心として国内外に大学が持つ知的財産を還元し、貢献するという使命を帯びている。

平成21年度に公立大学法人に移行し、現行の中期目標期間（平成21年度から平成26年度）の前半の最終年度となる平成23年度は、昨年3月の東日本大震災の発生により、授業料等の減免による被災学生の救済をはじめ、それまで想定していなかった様々な対応が求められた年度でもあったが、これらに的確に対応するとともに、柔軟かつ弾力的な事業展開により、業務運営の改善及び効率化等により利益を上げるなど、年度計画で予定していた各取組については、ほぼ計画どおり着実に実施しており、中期計画の目標達成に向けておおむね順調な進捗状況にあると評価できる。

一方、年度計画を十分には実施していない取組も一部認められた。年度計画を達成できなかった取組については、中期計画の達成に向けて、その内容を十分に精査し、今後の取組の強化・改善が求められるものであるが、中には、年度計画の目標設定のあり方について検討・改善を要するものも認められた。

これらについては、中期目標期間の後半を迎えることを踏まえ、厳格なPDCAサイクルの実施により、これまでの手法を必要に応じて見直しを行うなど、組織全体で的確に中期計画に対応することに加え、年度計画の進捗状況に係る自己分析については、自律的に業務管理を行う上で重要であることから、これまでどおり適切に行うよう留意されたい。

今後も、青森公立大学に求められている使命を明確に果たし、これまで以上に地域に貢献する高等教育機関としての機能を発揮するとともに、中期計画の着実な実施を強く期待する。

なお、次年度からの業務実績報告書の記載に当たっては、ホームページ等において、広く一般に公開することを踏まえ、業務内容及び評価内容が一見して明確になるよう、これまで以上に工夫されたい。

## 2 業務の実施状況

全体として、年度計画に定めた実施項目はほぼ着実に実施されており、大項目として定めている教育、研究、地域貢献、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供、その他業務運営の7つの各大項目において、十分には実施していない取組も一部認められるものの、特に大きな問題は見られない。業務の実施状況は、中期目標の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。

大学の教育研究の質の向上に関しては、全国的な就職率の低迷に対処するため、カリキュラムの改正により、キャリア教育科目を新設し、キャリア教育やインターンシップ制度の充実を図るとともに、産学連携協議会を開催し、企業、大学、父兄が連携して学生をサポートする体制を構築するなど、厳しい経済情勢を踏まえた取組に対して、大学としての責任と意欲を高く評価する。

地域貢献に関しては、エクステンション教育による社会人教育、大学間連携として公立大学法人青森県立保健大学と青森中央学院大学との単位互換協定の締結、高校生を対象とした出前講座など、高校と大学の連携活動は着実に実施されている。

また、公開講座、講演会などの研究活動の地域への還元は、計画を上回って実施されるとともに、国際芸術センター青森については、新館長の採用、利活用拡大策の検討、教育プログラムの充実など、より積極的な地域への貢献を踏まえた体制強化は高く評価できる。

業務運営及び効率化に関しては、いわゆる大学の「見える化」を積極的に推進するために、季刊誌の発行、議会への近況報告会の開催など、市民等に対する情報公開を積極的に行う広報体制を構築した。

財務内容の改善に関しては、国際芸術センター青森が実施しているアーティスト・イン・レジデンス事業が、文化庁補助事業「文化芸術の海外発信拠点形成事業」に採択されるなど、外部資金獲得へ向けた努力が見られる。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報提供に関しては、大学評価の第三者機関である財団法人大学基準協会の大学評価を受審し「適合」の判定を受け、平成24年4月1日から平成31年3月31日までの認証評価を得ており、大学運営の適正性の証明として評価できる。第三者評価だけでなく、自己点検等による各種評価を行い、その評価結果を積極的に活用するとともに、広く情報公開もされており、評価の仕組が良く機能している。

### 3 組織、業務運営等に係る改善事項等

特に改善勧告を要する事項はない。

## Ⅲ 項目別評価

1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>学生の育成に関して、就職率の向上のため、産学連携協議会を開催し、直接企業から情報収集を行い、その情報を学生のみならず、父兄にも提供するなど、大学と父兄が連携して学生をサポートする体制を構築するとともに、カリキュラムの改正により、キャリア教育科目を新設し、キャリア教育やインターンシップ制度の充実を図り、その結果として、毎年度就職率が着実に上昇していることは、大学間の競争力向上や入学希望者の増加につながるものとして評価できるものである。</p> <p>教育内容等に関して、フィールドワーク等による実社会を教育現場とする体験的学習を継続し、学生自らの体験から生まれた問題意識に基づく解決策や事業を構想させるなど、就職後において、即戦力となる人材の育成に力を入れたことは、就職先からの評価にもつながることから、就職率の更なる向上が見込まれるものとして評価できるものである。</p> <p>また、社会人学生に対して行っているネット回線を利用した遠隔授業において、その利用回数の上限を撤廃することにより受講しやすい体制を整え、社会人学生の獲得に繋げたことは評価できるものである。</p> <p>学生への支援に関して、生活困窮者に重点をおいた授業料減免制度に改善するとともに、東日本大震災により、家族が被災した学生を救済するため、特例措置を設けて授業料の減免を実施した。</p> <p>一方、修了生や就職先からの意見や評価を教育の改善に活用する取組や情報システムの更新・整備に向けた取組については、早急に実現に向けた着実な推進が求められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）	評価	3：中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。
<p>研究内容に関して、基礎的及び応用的研究全般にわたる推進体制を改革するため、研究推進会議を設置することとし、研究推進活動、研究成果発信、外部資金獲得支援等を行うものであり、研究の質の向上のみならず、教育の質の向上にもつながるものとして評価できるものである。</p> <p>研究水準及び研究成果に関して、地域に貢献する高等教育機関としての機能を発揮するため、計画以上に公開講座を実施し、積極的に研究成果を社会に還元したことは評価できるものである。</p> <p>一方、高い研究成果を顕彰する取組や研究実施体制等の整備について、学生の研究活動参加体制の改善、連携研究等に関わるポリシーの整備など、これらの課題については、学内の各審議機関が密接に連携して、早急に具体的な検討を行うことが求められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標をほぼ達しているものと認められることから、全体として、おおむね順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

3	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>地域連携の強化に関して、今後の地域貢献を更に充実させるため、地域連携センターを設置し、そのセンターが中心となって、産学官金連携の取組、エクステンション教育による社会人教育の充実、単位互換協定の締結など大学間連携による地域の高等教育のレベル向上、高校生を対象とした出前講座等の実施、オープンキャンパスの充実などの高大連携活動は着実に実施されており、設置した目的のとおり、その役割が有効に機能している。</p> <p>国際芸術センター青森については、より効率的な運営体制や事業内容の強化を図るために見直しを行ったところであり、地域住民に対する地域貢献の幅が広がることが期待されることから、その内容の充実に努めていただきたい。</p> <p>また、地域の企業、行政機関等との連携については、今後も引き続き、大学が持つ知的財産を還元し、貢献するという使命を果たすべく、積極的な連携が求められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			



4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>全学的な組織体制の構築に関して、これまでの組織の有する課題を把握し、その改善の過程に責任を持って当たるため、戦略会議を設置するなど、積極的に組織改革に取り組んでおり、今後、戦略的かつ機動的な大学運営が期待される。</p> <p>一方、費用対効果を客観的に評価するシステムは、実現可能性について適切に判断し推進する必要がある。</p> <p>人事の適正化に関して、多様で柔軟な人事制度を構築すべく、雇用、人事、評価等の人事ルールや人事の適正化に向けて検討している。これらの検討と併せ、人事評価システムの構築及び定員管理計画の策定についても、中期計画の達成には取組の強化が必要である。</p> <p>広報活動の推進に関して、地域に開かれた大学として、大学情報をより効果的に発信するため、季刊誌の発行、議会への近況報告会の実施、ホームページの活用など、市民等への情報公開を積極的に行っている。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

5	財務内容の改善に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>外部研究資金その他の自己収入の増加に関して、受験生の確保のため、積極的に県外の高校にも訪問し、入学選抜に関する情報提供等を行った。今後も、継続した入学志願者の増加につながる取組が求められる。また、外部研究資金の獲得のため、教職員に対する情報提供を積極的に行い、その結果として、文化庁と文部科学省の補助事業に採択されたことは評価できる。</p> <p>経費の抑制に関して、将来ますます厳しくなる財務状況を見据え、事務の集約化及び効果的な外部委託を実施するとともに、情報関連業務の効率化計画や財務状況の分析に着手するなど、積極的に効率的な予算の執行に取り組んでいる。</p> <p>その他の事項に関しては、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p> <p>なお、外部研究資金等の自己収入の獲得に向けた取組を推進するとともに、知的財産の管理・活用システムを導入し、早期に有効活用を図るなど、財務内容を改善する積極的な対応が求められる。</p>			

6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>評価の充実に関して、大学評価の第三者機関である財団法人大学基準協会の認証評価を受審し、「適合」の判定を受けたことは、大学全般の運営が適正に行われていることの証であり高く評価できる。</p> <p>また、第三者評価結果で指摘のあった努力課題等について、改善計画の策定・実施に向けた検討が行われており、評価結果の適切な活用が図られている。今後は、この評価結果を有効に活用し、これまで以上に魅力ある大学となるよう改善計画の策定・実施を確実に進めることを期待する。</p> <p>教員の自己評価制度に関して、教員個々の目標設定による自己評価制度の具体的な検討を早期に行うなど、大学の高い教育水準を維持するため、積極的な対応が求められる。</p> <p>評価結果の活用に関して、教職員の質の向上を図るため、FD（教員の教育・研究の質の維持・向上を図るための取組）、SD（職員の資質向上・能力開発のための取組）活動の積極的な取組が求められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			

7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
<p>施設設備の整備・活用等に関して、貸出基準等の整備を図るなど、自主財源の確保に向け、早急に有効活用の促進を図ることが求められる。</p> <p>人権啓発に関して、各種ハラスメントの防止体制と相談体制を強化するため、相談手順書やQ&amp;Aなどによる普及・啓発に努めるなど、人権教育の推進が着実に進められており、これまでの対応が有効に機能している。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として、順調な進捗状況にあると評価できる。</p>			